

広報

No. 157

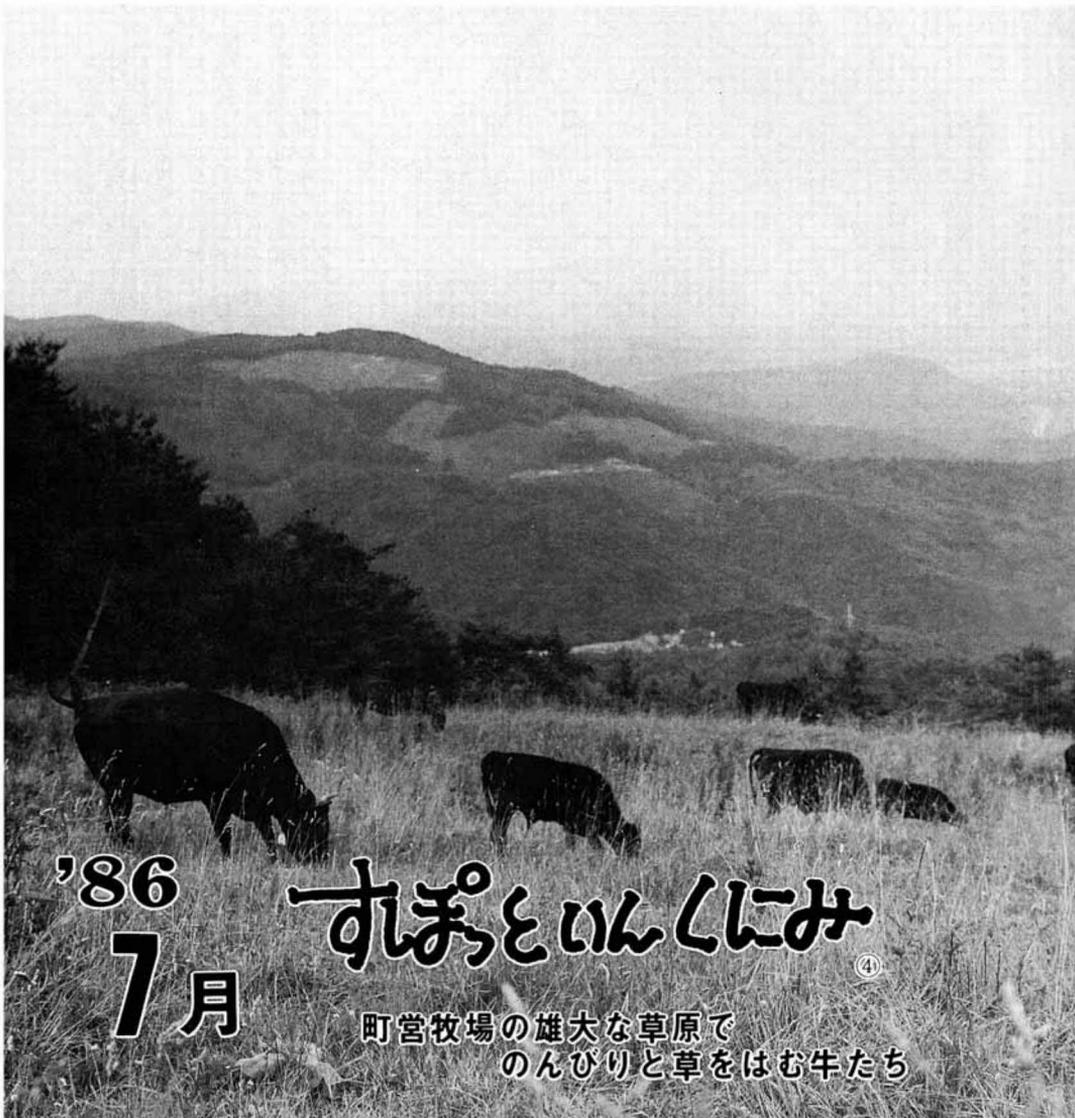
くにみ

昭和61年7月15日

発行・編集 国見町企画課

おもな内容

快適な生活環境をめざして……………	2～3
—下水道整備事業—	
住宅団地年内分譲の見込み……………	4～5
ふるさとの文化財……………	7
おしらせ……………	8～9
公民館だより……………	10～11
わだい……………	12



'86
7月

すまゝといんくにみ[®]

町営牧場の雄大な草原で
のんびりと草をはむ牛たち

境をめぐりて

下水道整備事業

安全で快適な生活環境のまちづくりをめざして、町では、下水道整備のための計画を進めています。

下水道は、家庭、工場などの雑排水や汚水を円滑に排除・処理し、衛生的な住みよい生活環境をつくるとともに、雨による浸水から暮らしを守り、川や海の汚れを防ぐ大切な役割をもっています。

町の基本計画を策定

国見町の下水道計画は、阿武隈川上流流域下水道県北処理区の流域関連公共下水道として、昭和五十年に基本計画を策定しましたが、今年度その基本計画の見直しを行い、新しい基本計画を策定するため、現在その作業を進めています。

計画対象区域

国見町公共下水道の基本計画は、昭和八十年を計画の目標とし、計画対象区域は、現在の市街化区域一三七ヘクタールと今後目標年度までの市街化想定区域、さらに浄化センター周辺区域を含めた約三三二ヘクタールが予定されています。

町の工事中

昭和六十三年

今年度に町の下水道基本計画を策定し、次年度の昭和六十二年に、都市計画決定、下水道事業計画の認可を経て、昭

和六十三年度は、下水道の第一期事業として工事に着手する計画です。

さらに、県が施行する流域下水道県北処理区の処理開始予定の昭和六十八年度に合わせ、市街地の密集地の一部から供用を開始する計画です。

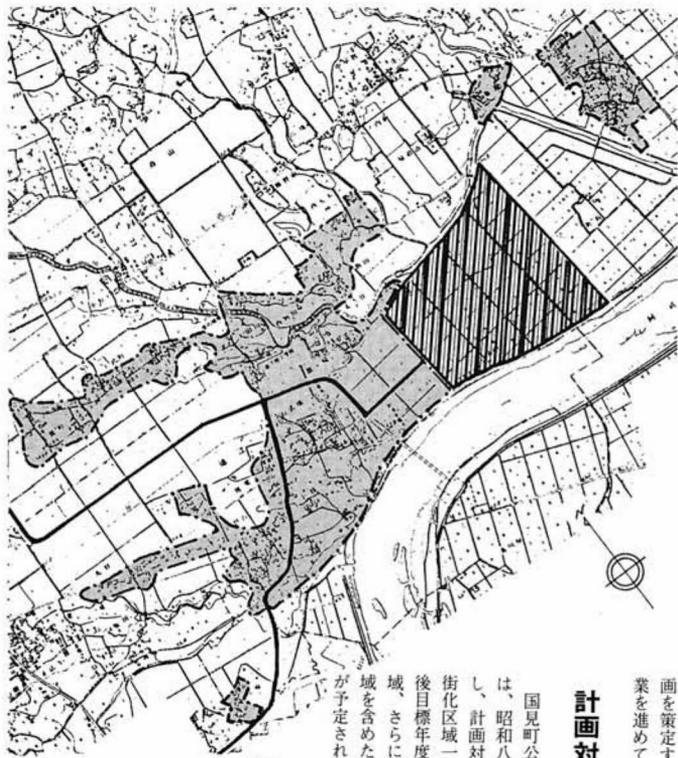
分流式で下水を排除

下水の排除方式には、分流式と合流式がありますが、当町においては、流域下水道関連公共下水道として汚水と雨水を別々に処理する分流式で処理する計画です。

管渠工事に着工

一 県の流域下水道事業

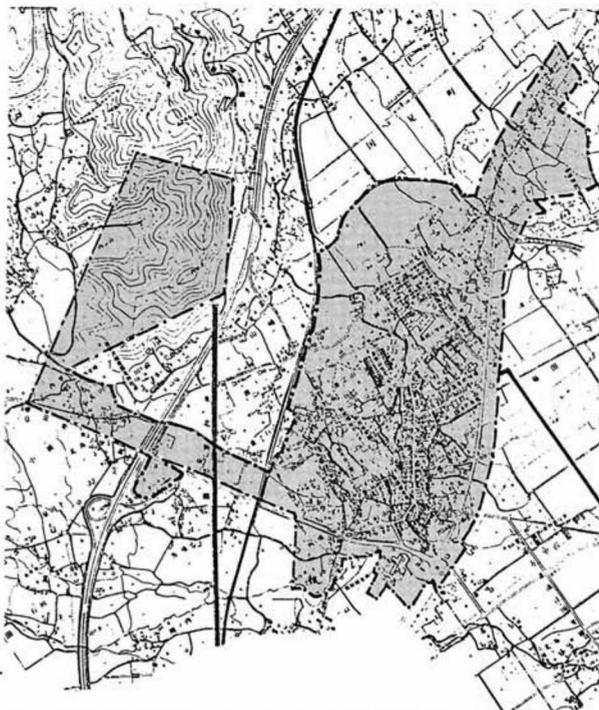
福島市、桑折町、伊達町、国見町、梁川町、保原町の一市五町による阿武隈川上流流域下水道事業の県の施行による管渠の埋設工事は、徳江地区を皮切りに今年八月ごろから着工する予定となっています。このため、この工事による周辺沿線の皆さんや、道路を利用する方々にご迷惑をかけることと思いますが下水道事業の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。



快適な生活環

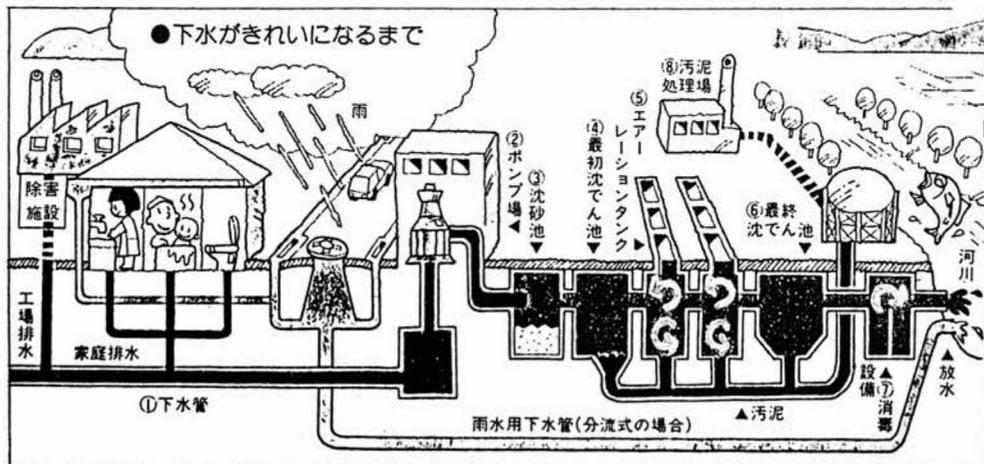


▲浄化センター建設予定地



凡 例	
	計画対象区域
	浄化センター
	流域下水道幹線管渠

1 : 25,000





住宅団地造成事業始まる 予定は四十四区画

今年の三月定例議会で、第二次国見町振興計画が決まりましたが、それに伴う住宅建設計画が実施されることになりました。

これは、町から委託を受けて福島地方土地開発公社が住宅団地を造成し、住宅需要にこたえようというものです。(七月二十一日の臨時議会に計画図を提出) 総面積一萬六千平方メートルのなかに、宅地四十四区画、道路四百区画、それに緑地公園などが完備されます。

町では、住民生活の安定と町の発展を計るために、福島地方土地開発公社に委託して住宅団地を造成し、宅地需要者に分譲しようと、調査研究を進めてきました。

そして去る六月八日、地元山崎公民館に於て、住宅団地造成にかかる説明会を開催したところ、地権者全員の賛同が得られました。

これを受けて、福島地方土地開発公社国見町評議委員会で、六月十一日に十分審議を重ね、昭和六十一年度事業として決定したものです。

六月二十六日の評議委員会において、事業実施にあたり設計委託業者の指名など、細部にわたり審議をいたしました。

七月一日設計業者入札の結果、桑折町の林王測量設計が落札、現在測量設計を行っています。



わが町の人口は一万一千九百九十三人(七月一日現在)で、六十年十月の国勢調査人口一萬二千十人と比べると、僅か九ヶ月の間に十七人も減っています。

その原因の一つに住宅の不足があげられます。公営住宅はあっても戸数は限られています。

宅地企業とか不動産会社はななく住宅を求めるにも購入機関はありません。一方住宅に困窮する勤労者は多く、地町に住宅を求めて転出することが、人口の減少の一因ともなっています。



海千山千 海と山に関連したことわざには「海と山」「海が山」「海とも山とも知れず」「海千山千」などがありますが、それぞれ全くちがった内容です。誤解・誤用のないように気をつけましょう。

「海と山」は、海の恩と山の恩の意味。「父母の恩は山よりも高く、海よりも深し」ということわざから、「海と山」といえば高く深い父母の恩をさします。

「海が山」は、海が山になるような無理が行われること。「海と山」とは一字の差ですが、たいへんな違いです。同様に「海を山にする」といえば、無理なことを強行するたとえに使われます。

「海とも山とも知れず」は、海のものか山のものかわからないさま。どちらかめ決めかねる場合に用いられる表現です。

「海千山千」は「海に千年、山に千年」の略。海や山に千年住んだ大蛇は龍になるという俗信から、経験が豊富で世間の表裏に通じていることをさします。

どちらかといえば、食えない人物に使うケースが多く、ほめ言葉とはいえません。



山崎宮後住宅団地造成計画図



宅地造成を表現し、人口流出に歯止めをかけ、健全な都市開発を行い、ひいては住民の生活安定と社会福祉の向上に努めようとするものです。

この区域は、町振興計画による第二種住居地域と一部住居地域となっており、藤田市街地中心部より北へ五百メートルのところで

す。

この地区の東部と南部には、北古館、宮前の町営住宅が接し、北部には田園が開け、遙かに半山の秀嶺が見える風光明媚な静かな処に位置しています。

国鉄藤田駅までは徒歩で五分、福島交通バス停までは八分と交通の便にも恵まれています。

計画されている山崎宮後(仮称)住宅団地造成事業は、大字山崎字小館脇・宮後・北口・堂ノ前の一部一万六千四百平方メートルの中に宅地が四十四区画(一区画約八十坪)が予定されています。

その他に文化財藤田城空堀遺跡(二千平方メートル)幹線道路(幅七メートル・延長百二十メートル)・団地内道路(幅六メートル・延長三百メートル)などが含まれます。

八月月上旬に着工して十月末には完成の予定です。分譲の方法は一般公募によります。分譲価格については平方メートル当り二万九千円(坪当り九万五千元)前後の予定です。くわしいことは未定となっております。その都度、広報「くにみ」でお知らせします。

いつも水と っしよ。

■薬こう水のある 豊かな暮らし■

8月1日は「水の日」
1日から7日は「水の週間」です



火の守りの誓い新た

消防団定期点検

七月十三日、小雨降る中、消防団の定期点検が実施されました。

前後の豪雨で、藤田小学校のグラウンドは使用不能の状態のため、会場を藤田小学校体育館に移しての実施となりました。

藤田市街道路上に整列した団員と十一台の消防車に分乗した町長、団長、並びに来賓の方々、会場を藤田小学校体育館で、通常点検が行われました。

町長講評、団長訓示に続き、表彰並びに表彰伝達が行われ、前団長に町長、団長から、感謝状と記念品が手渡されました。



▲街頭検閲する菊地町長

また、一般表彰者として、消防水利土地提供者の佐藤秀夫さん(小坂字小坂五)と消防活動協力者の渡邊勝助さん(藤田字中沢一、十の三)が受賞されました。

団員の皆さん、町民の生命、身体及び財産の保全のため、今後も活躍されますようお願いいたします。

ミス国見写真展

にぎわう

六月一日、町のカメラクラブ「写友あつかし」が主催したミス国見撮影会の写真コンテストの入賞作品展示会が、六月二十五日から五日間町公民館で開かれ、好評を博しました。

コンテストには、県北各町から四十七人、百七十三点の応募があり、霊山町の大橋俊一さんの最優秀賞ほか三十四点が入賞しました。いずれも、モデルとなったミス国見三人の生き生きとした表情や容姿が、一瞬のシャッターチャンスにとらえられており、見学に訪れた人たちの眼を惹きつけていました。審査にあたった日本写真文化協会の佐藤助次さん(福島市)は、「素人のモデルを撮影する、どうしても表情がたかくな

りがちですが、その点をよく克服して、生きた表情をよく出しています。手の位置も大切ポイントなので気を配ってほしいですね」と語っていました。



▲コンテストで入賞された皆さん

会計室より

お知らせ

金融機関の連休二日制拡大に伴い、各金融機関では昭和六十年八月から現行の第二土曜日に加え第三土曜日も休業日となります。このため公金の支払についても第二、第三土曜日は不可能となりますのでご協力をお願いいたします。

なお税金など納入金については従来どおり役場会計室で取り扱います。

身近にある野草薬草

(25)

ノイバラ



奇数羽状複葉で、枝に互生し、托葉は縁が深く切れ込んでいる。小葉は二〜四cmの楕円形で先がとがり、縁に鋸歯があります。また、葉の上には光沢があり、下面には短毛が生えています。

四〜五月に径二〜三cmほどの純白五弁の、ほのかな香りのある花を開きます。たくさんのお花が集まって、全株満開のときはみごとです。

秋、紅色に熟するほほ球形の偽果を結びます。

▼薬用▲

偽果が深紅色に熟する一歩手前の、多少青みがかつたのもあるころに採取し、日干しにします。

利尿・下剤に一日量として、乾燥した偽果(営実)二〜五グラムを煎じ、二〜三回に分服します。

おでき・にきび・はれものにおできとして二〜五グラムを煎服するか、煎汁で患部を洗います。

▼食用▲

花は五〜六月ごろ採取します。花萼を水洗いし、水けをふきとって、ホワイトリカーに漬けて、冷暗所で三か月ほど熟成させます。

(山野草カラー百科から)

野生バラの代表格で、川辺や山林のへりの日の当たるところに多く自生します。

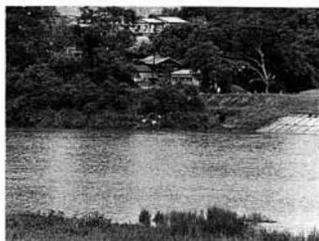
二メートルくらいに伸びる落葉小低木で、枝には鋭いとげがあります。茎は初めはつる状で、他の植物にからみつき、盛んに分枝して茂り、徐々に幹に変化し、無毛になっていきます。

ふるさとの文化財

28

とく え か し 徳 江 川 岸

菊池利雄



寛文四年(一六六四)上杉綱勝の急死により、米沢藩は半地削封となり、伊達・信夫の両郡および出羽国屋代郷(現山形県野田郡高鳥居町)は幕府領として、関東郡代伊奈半左衛門忠克の支配下に置かれた。これら新たに幕領となった村々からの年貢米は、御城米とも呼ばれて江戸へと廻米される

こととなる。

幕府は寛文四年に、江戸の豪商渡辺友意、同十年には河村瑞賢等に命じて廻米を請負わせている。御城米は阿武隈川によって荒浜港(現宮城県亶理町)まで、小鶴飼船や艀船で運ぶ必要から、途中難所とされた五十沢村柴崎(現伊達郡)と、仙台藩領水沢・沼ノ上(現宮城県伊)の間にある狼

跳など、危険な峡谷部の川除普請を行い、運航の安全を図るとともに、沿岸の福島・鎌田・長倉(岡か)・桑折・中瀬・伊達崎・徳江・東大枝・八幡には、津出しを行う川岸が設置された。

国見の村々からの御城米は、年代によって多少異なっていたが、石母田と小坂村は桑折川岸(上部か)、森山・東大窪・藤田・塚野目・徳江村は徳江川岸、東大窪・西大窪・西大枝村は東大枝川岸から積出された。この内慶応元年(一八六五)に徳江川岸から積み出された御上米につ

いてみれば、旧十一月十五日から翌年の正月二十七日までにおよび、米九百八十俵三斗余・大豆二十六俵二斗余となっている(慶応元年梓達御年貢当主御懇米小輪廻り清取帳「国見町史」巻二)。

また、年月未詳の「阿武隈川筋回来河岸米大豆納辻調査」(町史二)には、徳江川岸からの積出し分として米千六百十九俵余、

大豆二十六俵余とある。小鶴飼船一艘あたり河水の増減にもよるが、米五十俵ほどを積込み、

下流の伊具郡耕谷村沼ノ上まで運ばれて、ここで百俵積の艀船に積替えられて荒浜港へ、荒浜港から江戸浅草の幕府倉庫へは元船と呼ばれる千石積の海船で運ばれていた。

徳江川岸の跡地は、船付場なる地名が残されている現在の二階間々崖地の南側付近にあったといわれ、阿武隈川の流路が江戸時代よりもいちじるしく北に寄って流れているため、いまは

河道となって、当時における川岸場の痕跡は残されていないが、地元の伝えによれば、いろは四十八倉と呼ばれる、寄(郷)倉が立並んでいたといわれるが、この徳江川岸より御城米の津出しを行った村々は、前述のごとく藤田村など五ヶ村にとどまり、

寄倉は村数よりも多く存在したとは考えられない。

徳江川岸は、封建時代下にあるの年貢米廻送のみならず、大量輸送の手段としてその他の物資の交流も、大きな役割りを果たしていたが、明治二十年、東北本線の開通にもない、その歴史的な使命を終えて、衰微していった。

参考文献「国見町史」一・二巻

モリアオガエル

山間に響く鳴声



モリアオガエル



生みつけられた卵塊

今年も、町内で唯一の生息地である馬頭山蛇沼に、たくさんモリアオガエルが産卵しました。

六月中旬、梅雨入り前の暑い日差しの中、うっそうと茂った灌木に囲まれた蛇沼の沼辺の葉陰には、直径20cmほどの卵塊がいくつも産みつけられています。

沼では、モリアオガエル独特の澄んだ鳴き声が響きわたり、卵塊の下では、まるでオタマジャクシにかえるのを待っているかのように、親ガエルがやさしく卵塊を見守っていました。

これらの卵塊は、まもなく一斉にオタマジャクシにかえることでしょう。保護に努めたいものです。



レッツコール!!
あなたの情報ステーション



NTT福島電報電話局では、六月二十五日から情報サービスを始めました。

いま、一〇四番へは、「福島市内で一泊五千円以内で泊まれるビジネスホテルはありませんか?」「郷土料理のおいしい店を教えてください」などの問い合わせがたくさんあります。「情報案内サービス」は、このような問い合わせにたいし、ホテル・旅館・味どころ・おみやげ・リビングなど、予めご契約いただいた会社やお店などの情報を、電話対応のペレランオペレータが、きめこまかく案内するサービスです。

案内内容は、店名・所在地・電話番号・メニュー・料金などで、営業時間は、午前九時から

午後八時まで、土曜日・日曜日、祝日が午前九時から午後五時まで取り扱います。
情報案内サービス

「NTTみちのく福島」

の電話番号は、

二四一二〇〇一です。

なお、「NTTみちのく福島」では、豊富な情報案内サービスとなるよう多数の情報提供者を募集しています。

連絡先 NTT福島電報電話局 業務部営業課広報係

☎三二一七三六二

結核療養者・回復者ならびに

その家族の生活記録募集

題名 自由

内容

結核が、個人や家族、ひいては社会に大きな損害を与える恐ろしい伝染病であることを、自らの体験を通じて描き、人びとに感動を与え、結核予防の重要性を強く訴えるもの。

応募方法

四百字詰原稿用紙五枚以内。

題名、住所、氏名(ふりがな

をつける。匿名希望の方はその旨を)、性別、年齢、電話番号、職業を明記すること。

締切日

昭和六十一年八月十五日(金)
当日消印有効

結核予防の標語募集

内容

一、有症状時の早期受診の大切さ。

二、BCG接種を受けることの大切さ。

三、家庭・地域の健康管理の大切さ。

などを強くアピールするもの。

応募方法

一言製ハガキに応募標語、住所、氏名(ふりがなをつける)、性別、年齢、電話番号、職業を明記すること。

締切日

昭和六十一年八月十五日(金)
当日消印有効

◆生活記録、標語とも

賞金

一等 十万円と毎日新聞社賞(一名)

二等 五万円(一名)

三等 一万円(三名)

佳作 五千円(五名)

送付先

〒101 東京都千代田区三崎町一―三二―二 財団法人結核予防会事業部

**交通事故のご相談は
お気軽にどうぞ
無料でご相談に応じております**

午前9時半～午後4時40分(平日)
土曜日は正午まで(第2・第3土曜日は休みます)
◎専門の相談員が親身になってご相談に応じます
◎弁護士相談日: 毎週木曜日午後1時～4時

**社団法人日本損害保険協会
福島自動車保険請求相談センター**

福島市栄町10-21 住友生命福島ビル5階
福島調査事務所内
☎0245-21-1295(直通) 0245-23-3471
電話のご相談もお受けします

七月は河川愛護月間です

▼私たちにできる河川の浄化対策

- ゴミを川に流さない
- 食べ残しなどのゴミは、ゴミ収集指定場所に出すようにする
- 洗剤は粉せっけんなど、無リンのものを使用する
- 河川の清掃をする

善意の窓

町社会福祉協議会に

◆横山市郎さん(泉田中)から
二万円―故政市さんのご遺志

◆高橋隆雄さん(貝田)から
五万円―故よしさんのご遺志

◆蓬田勝さん(第九)から
五万円―故ウメさんのご遺志

藤田小学校に

◆奥山モトさん(山崎小館)から
雑布五十枚

◆石母田長寿会婦人部から

雑布百枚

◆第二藤田長寿会婦人部から
雑布五十枚

小坂小学校に

◆横山市郎さん(泉田中)から
一万円―故政市さんのご遺志

森江野小学校に

◆徳江たい肥センターから
発酵たい肥(二トントラック
一台分)

県北中学校に

◆横山市郎さん(泉田中)から
三万円―故政市さんのご遺志

◆国見町老人クラブ連合会から
雑布五十六枚

◆第二藤田長寿会婦人部から
雑布五十枚

藤田保育所に

◆第二藤田長寿会婦人部から
雑布三十枚

町に

◆東北電力株式会社福島営業所
から 防犯灯三灯

戸籍の窓口

(6月受付分)

出生おめでとうございます

子	名	保護者	部	落
郁美	(いくみ)	石川博利	第	四内前
直之	(なおゆき)	井上金六	川	内前
久美子	(くみこ)	大槻勝敏	駅	内前

ご結婚おめでとうございます

氏	名	部	落
菅野	周二	第	前市十町
菊池	純子	福	島山
菅野	久美子	第	福第霊山

おくやみ申し上げます

氏	名	年齢	部	落
齋藤	セシ	93	徳	北八中
野善	左エ門	83	第	田中部
横山	政市	88	泉	田九部
王手	八郎	83	中	具北取
高橋	よしメ	80	北	部取北
蓬田	ウミサ	78	島	町北城
佐藤	ミチヨ	63	宮	高小石
林田	正義	34	高	小石母
松浦	義ナ	65	小	石母田
齋藤	ナミ	82	石	母田北

今月の納税
七月は、固定資産税(第一期)の納入の月です。納期内(七月末日まで)に完納しましょう!!

人口と世帯
7月1日現在(前月比)6月中のうごき

男	5,798人 (-9)	転入	9人
女	6,195人 (-15)	転出	24人
計	11,993人 (-24)	出生	3人
世帯数	2,885戸 (±0)	死亡	12人

「わたしから
実行します
交通安全」


夏の交通事故防止運動が七月二十一日から八月二十日までの一ヶ月間展開されます。
今年の運動の重点は、
(1)過労(いねむり)、無謀運転の防止 (2)歩行者、特に子供と高齢者の交通事故防止 (3)二輪者の交通事故防止 (4)シートベルト・ヘルメットの正しい着用の徹底、の四項目です。
七月五日からは、原付自転車もヘルメット着用が義務づけられ、かぶらないと違反点数一点が加せられます。

7月 文月 (ふみづき)	8月 葉月 (はつき)
19日(土) 勤労青少年の日	1日(金) 水の日
20日(日) 土用の丑	観光の日
21日(月) 満月	7日(木) 仙台七夕まつり
23日(水) 大暑	8日(金) 立秋

心配ごと相談日
場所: 役場二階相談室 (東側入口からお入り下さい)
時間: 9時~12時
こまったことや、相談ごとがありましたら、お気軽にご相談下さい。秘密は絶対を守ります。
(相談員)
7月25日(金) 樋口 清三・村上ハツヨ
8月5日(火) 曳地 善作・長谷川キン
8月15日(金) 佐久間 巖・阿部 キク



国見町公民館
☎85-2676
(有) 4156

今日からみんな友だちだ

少年仲間づくりの教室が開講

六月二十八日午後一時三十分から、公民館で「少年仲間づくり教室」の開講式が行われました。

この教室は、小学四年生から六年生までの子供たち七十四人



▲ちよびり緊張ぎみの開講式

が、来年二月まで、ゲームや野外活動などを通して仲間づくりの学習をするものです。

開講式には、教室生と父兄百五十人が出席、蓬田教育長、井砂公民館長、瀬戸藤田小学校長のあいさつのおと、担当者から今後の学習計画や注意事項などの説明がありました。

そのあと、「サークルほげつ」といふ会員の指導で、ゲームを楽しく行い、第一回目の学習を終えました。

今後の主な学習予定は、七月下旬キャンプ研修会、八月きもだめし大会及び史跡めぐり、九月昔のおちやづくり、十月ミニ運動会、十一月伝承あそび、十二月クリスマスパーティー、一月たこあげ、二月お別れパーティーなどです。

家庭教育

講演会を開催

久しぶりの好天に恵まれた六月二十四日、県社会福祉事務所の協力を得て、県婦人相談所長黒須敦子先生を講師に迎え、「子の旅立ちと親」という題で、約一時間にわたり、家庭教育講演会が公民館で開催されました。

黒須先生の豊富な経験を通しての、思春期の子供たちに対する接し方などについての講話であり、出席者の皆さんは熱心に聞き入っていました。



▲黒須先生の講話を熱心に聞くみなさん

八チームが熱戦展開

町長杯争奪ソフトボール大会

青少年の親善向上とスポーツの振興を目的にした第二回国見町長杯争奪ソフトボール大会が六月二十九日、山崎運動場で開かれました。

町スポーツ少年団連絡協議会（神津武志代表）主催、町・町教委後援で開催された大会には、各小学校より八チームが参加、小雨がちらつく中熱戦を繰り広げました。グラウンドには、団員のにぎやかな応援合戦を展開しました。

この結果、藤田スポーツ少年団Bチームが優勝、二位は同Cチームでした。



▲熱戦を展開したソフトボール大会

オールナイト ハイキング参加者 募集について

期日 8月9日(土)～10日(日)

集合時間 午後6時30分

歩く距離 35～40km

会費 五〇〇円

募集人員 一〇〇名

(中学生以上)

〆切り 7月31日

ファミリー登山

参加者募集

期日 8月24日(日)

雨天の場合31日(日)

行先 安達太良山

募集人員 50名(親子で、小学校4年生以上)

会費 大人二、五〇〇円

子供二、〇〇〇円

〆切り 8月20日

※直接電話が公民館へ。

奇 贈

◆保原青年会議所から

図書 子供を伸ばす知恵の目

外二四四冊

図書券 二万五千円

◆福梁製作所から

焼肉用鉄板 五ヶ

ありがとうございました。

婦人学級で 合同研修旅行

去る六月二十二日、町内の婦人学級相互の交歓と、学級生の親睦をはかるため、高城・西大枝・のぼら・中央の各婦人学級から二十二名が参加し、いわき方面への合同研修旅行が実施されました。

優雅にたなずむ白水阿弥陀堂を見学し、昼食後、三崎公園では小名浜港、太平洋の雄大な景観を楽しみました。最後に、いわき市石炭化石館を視察し、地球の歴史を体験できました。バスの中でも、ゲームをした



▲三崎公園で記念撮影

り、カラオケを楽しんだり、和気あいあいの中、有意義な研修旅行を終えました。

成人学級生 見聞を深める

六月二十五日(水)に成人学級生二十五名で、仙台市を中心とした見学学習を実施しました。午後からはあいにくの雨となりましたが、近代科学の粋を駆使した気象台、ビール工場、それにちょうど伊達政宗展の開催していた、仙台市立博物館では、数多くの資料が展示されていて、たいへん良い学習となり、有意義な一日を過ごしました。



▲気象台露場で話を聞く

親子が いっしょに遊ぶ

乳幼児学級の、第三回目の学習が、七月四日、町民体育館で行われました。

前福島市教育指導員の遠藤よね子さんを講師に迎へ、身近な物を使って子供の運動機能の発達を促す方法などを、親子がいっしょになって学びました。



▲親子で仲よく学習

阿津賀志学級で 研修旅行

初夏の風さわやかな六月十六日(日)、学級生総勢六十名で、

郡山市に在る福島県緑化センターや二本松の酒造工場などを見学し、無事帰町しました。特に緑化センターでは、江戸中期に日本人の庭園師が考へたと言われ、東北では最初の設置となった、水琴窟の妙なる音に一同大喜びでした。

◎七月の行事から

七月四日午前九時から、公民館で学習会を開催しました。

「薬草の話」の講義を、梁川町の薬剤師貝津好孝さんから受けました。

薬草には、体を温める性質と冷やす性質があるので、病気の



▲薬草についての講話を聞く

状態によって薬草を選ぶこと、また、採取時期も大切であるとの話があり、学級生は熱心に耳を傾けていました。

福島県民スポーツ大会

町代表チーム決まる

過日、種目別町予選大会が開催され、熱戦の末、次のチームが町代表に決まりました。

七月二十日福島市で開催される県北地域大会での活躍が期待されます。

◇壮年ソフトボール

宮町クラブ

◇家庭バレーボール

宮町クラブ

◇卓球

源宗山チーム

◇軟式庭球

国見テニスクラブ

わ
だ
い



渋谷さんに中央奨励賞

「わが家の家計簿体験談」

県貯蓄推進委員会の第三十二回「わが家の家計簿体験談」で、主婦渋谷つぎ子さん（光明寺宇沼一六の二 三十七歳）が、中央奨励賞に選ばれました。渋谷さんの作品は、県でただ一点中央コンクールに推薦出品されます。



▲賞状を手に喜びの渋谷つぎ子さん

家計簿をつけはじまって丸九年間という渋谷さん。この経験が、栄えある中央奨励賞となったのです。

「数多くの人が家計簿をつけている中で、私がおもえたのは申し訳ないような気がします。もっと多くの人が家計簿をつければ、いろんな面でできっとプラスになると思います。家計簿をつけていない方は、ぜひつけるようお勧めいたします。」と受賞の喜びを語ってくれました。

新生生委員に

佐藤さん

泉田地区担当の民生（児童）委員は、死去により欠員となっ



▲町長から委嘱状を伝達される佐藤八重子さん

ていきましたが、このたび、後任の民生委員として、佐藤八重子さん（泉田字川端一 五十八歳）が任命されました。

去る六月二十五日、町長室において、国見町民生（児童）委員協議会の曳地善作総務、朝内ひで副総務も出席し、菊地町長から佐藤八重子さんに、厚生大臣並びに福島県知事の委嘱状が伝達されました。

席上、町長から「社会福祉の増進のために頑張ってください」と励まされ、これに対し佐藤さんは「微力ですが、民生委員として、地域の福祉向上のために尽くします」と抱負を述べました。地域のみなさん、よろしくお願いします。

「正しい自転車の

乗り方」学ぶ

七月七日、森江野小学校では、全校生百八十三名が参加し、「正しい自転車の乗り方」の講習会が行われました。

八巻イチ子森江野交通安全母の会会長が見守る中、福島警察署の交通巡視員二名と、桑折警察署藤田駐在所の管野巡査からお話を聞いた後、一、二年生



▲「横断歩道は手を上げて渡ろうね」

は校庭で横断歩道の正しいわたり方、三、四年生は校庭に引かれたラインにそっての正しい自転車の乗り方について指導を受け、その後、道路にも出ました。また、五、六年生は実際に道路に出て、自転車の左折、右折、停止の仕方などを手信号を使って行われました。

森江野小学校では、四月中旬にも「歩行訓練」を行っており、この日が二回目の交通安全教室。この日、児童が持ちよった自転車は、すべて森林喜助さんが整備、点検していただきました。児童たちにとっていつも乗りなれている自転車ですが、巡視員のお姉さんたちが見ていたせいか、ちょっぴり緊張しながらも真剣に指導を受けていました。

編集日記

▽先日、モリアオガエルの取材のため、二年ぶりに蛇沼に向かいました。道の記憶がうろおほえの上、山の模様もやや変わり、どうにかたどりついたのは、一時間後。ふつうに行けば、車から降りて十分の所ですが、迷ってしまい、大変な目にあいました。モリアオガエルの鳴声は聞こえるのですが、木立ちにさえぎられ、やっとのことなどどりついた時は、さすがにホッとしました。これも、取材のための執念が通じたのだ、なんて自己満足しきり...

▽連日の梅雨空で、写真撮影もままならず、気をもみましたが、どうにか今月も編集を終えることができました。梅雨の合い間の一、町営牧場に出かけました。草いきれの中で、のんびりと休む牛たち。すると突然、草原にカモシカが現れました。カメラを手に近づいても、逃げる様子もなく、草をはんでいました。ちょうどフィルムがなくなってきたと思ったら、カモシカも姿を消しました。

▽まもなく梅雨もあがり、福島独特の暑い日が続くことでしょう。夏バテせず、夏を過ごしたいものです。